

## 2023年度 事業報告書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

特定非営利活動法人3・11甲状腺がん子ども基金

### 1 事業の成果

2023年度は、4月1日から3月31日まで、福島原発事故当時18歳以下で、その後甲状腺がんになり患った1都15県の子ども・若者に対して療養費を給付する「手のひらサポート」事業第8期を実施した。

手術（診断）、再手術、アイソトープ治療（複数を含む）に対する療養費を給付した。このほか、社会的課題として、進学や就職で地元を離れても手術した主治医のもとに定期通院する人のため通院交通費の助成、甲状腺がんを経験したのち妊娠した方で、甲状腺ホルモン調整のため、産婦人科と共に甲状腺科にも通院する必要のある人がいることから、妊娠・出産支援金、ひとり親など経済的困難を抱えている受給者の家庭などへの付加給付など、幅広い支援を継続した。また、療養費事業の広報を強化するため、福島県内の5市および災害復興住宅の一部で療養費給付事業広報のためのリーフレットのポスティングを行った。

「手のひらサポート」の今期の新規申請者は19人、再手術2人、アイソトープ治療5人であった。治療後の妊娠・出産の経験者も増えてきており、今期は8人の申請者があった。2023年度末までに、事故当時福島県内在住だった146人、福島県外在住だった77人、合計223人に療養費を給付している。

今年度は、福島県内の甲状腺がん当事者の実相を伝える活動のひとつとして、NHK福祉情報番組ハートネットTVの取材に協力し、8月8日に「福島・甲状腺がん 語りはじめた若者たちの声をきく」という番組が放映された。基金受給者内の4人の若者が「手術して終わりではない」自身の体験を語り、スタジオでも受給者の一人と基金事務局長が出演し、甲状腺がんを体験した子ども・若者たちの実情、保護者の思い、必要な支援、特に行政の取り組みの必要性などを訴え、大きな反響を呼んだ。

情報発信として、依頼を受けて大学（立教大学）、高校（福島東高校）での講義（お話）のほか、講演（小田原市）を行った。

2024年3月23日には、第4回のシンポジウム「原発事故と甲状腺がん 当事者の声をきく vol.4」を、福島県郡山市のミュージカルがくと館ならびにオンラインのハイブリッドで実施した。

福島県内で原発事故を経験し、その後り患った2人の甲状腺がん当事者と、事故のために福島県から避難し、現在原発事故の賠償訴訟の原告となっている若者1人が自身の体験を発言した。基金からは、放射線ががんを起こす仕組みや福島県の甲状腺検査の問題点、当事者が求めるサポートなどについて報告を行った。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
東京電力福島第一原子力発電所事故以降、甲状腺がんや甲状腺疾患、その他、被曝影響によると思われる病気に苦しむ子どもたち等への支援及び被曝影響に関する調査事業	小児およびAYA世代の甲状腺がん患者とその家族を経済的に支援する療養費給付事業「手のひらサポート」第8期 新規19人、再手術2人、アイソトープ治療5人、妊娠・出産支援8人、コロナ感染10人、特例2人、通院交通費助成16人など	毎月	事務所	5名	甲状腺がんと診断された子ども・若者・その家族 (対象地域 1都15県) 235名	11,996
	相談とフォローアップ ・当事者向け情報発信「手のひらレター」発行 ・事務局員による傾聴・相談	年4回	事務所	2名	235名	
		常時	事務所	2名	不特定多数	
	情報発信・普及啓発活動 ・NHKハートネットTV取材および収録協力 ・療養費事業普及啓発の広報活動(福島県内での戸別配布) ・講演・講義 立教大学 福島東高校 小田原講演会	4月～6月	福島市 郡山市 いわき市 東京	2名	不特定多数	
		8月初旬	福島市 郡山市 いわき市 伊達市 須賀川市	3名	不特定多数	
		7月3日/10日	練馬区	2名	30名	
		10月6日	福島市	1名	20名	
調査・提言 ・シンポジウム 「原発事故と甲状腺がん - 当事者の声をきくvol.4」開催(郡山会場&オンライン)	24年3月10日	小田原市	1名	100名		
24年3月23日	郡山市	8名	約250名			

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の人数	事業費の金額(千円)
該当なし					